

(4) エドウィン・ダン記念館の保存・活用

開拓使のお雇い外国人の一人として、来日したエドウィン・ダンは、明治9年(1876年)に、開拓使牧牛場を開設し、北海道酪農の基礎を築きました。牧牛場は、その後農商務省真駒内種畜場と改称し、明治26年(1893年)からは北海道庁種畜場となりました。この建物は、明治20年(1887年)真駒内種畜場事務所として建設されました。

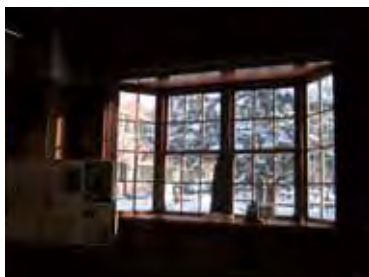
その後、北海道庁種畜場は移転しましたが、昭和39年(1964年)に市民組織によって、この建物は現在の場所に移築され、彼の業績と生活の様子、開拓の記録を展示する記念館として利用されています。昭和41年(1966年)からは札幌市に移管され、平成15年(2003年)の大規模な補修工事を機に、地元町内会を中心に構成する「エドウィン・ダン記念館運営委員会」が、館の運営・活用を行っています。

3

地域でまちづくりに活かそう



建物内部



記念館には市民や観光客などが訪れます

景観
まちづくりの
POINT

皆さんの地域でも

歴史を重ね人々に愛されてきた建物は、それだけで周辺の雰囲気や和ませ、地域住民へ温かみや安らぎを与えてくれます。

そのような歴史的建造物を、記念館として使用するだけでなく、地域の集まりやイベントに活用することで、地域住民のコミュニティの中心として活躍しています。コミュニティの場は、地域住民同士のつながりや憩いの空間となり、地域主体のまちづくりへと発展していきます。



歴史的建造物としての温かみが感じられます